

例 言

- 1 本書は、独立行政法人国立文化財機構（2006年度までは独立行政法人文化財研究所）奈良文化財研究所が、2005年度から2008年度の4ヵ年にわたり、独立行政法人日本学術振興会から科学研究費補助金（基盤研究A）の交付を受けて実施した「古代東アジアにおける造瓦技術の変遷と伝播に関する研究」（課題番号 17202022、研究代表者：毛利光俊彦・山崎信二）の成果報告書である。
- 2 本書には、2009年3月14日（土）と15日（日）の両日、奈良文化財研究所平城宮跡資料館で開催した国際シンポジウム「古代東アジアにおける造瓦技術の変遷と伝播」の研究報告と総合討議を収録した。また、2008年3月26日（水）と27日（木）に中国社会科学院考古研究所と奈良文化財研究所が北京市で共同開催した国際学術検討会「四～十世紀の中国の造瓦技術（中国語原題：四至十世紀東亜制瓦技術研究）」の報告資料を翻訳し、附載として収録している。
- 3 本研究における研究組織は以下のとおりである（所属は当該時点）。

研究代表者	毛利光俊彦	（奈良文化財研究所）2005年度
	山崎 信二	（奈良文化財研究所）2006～2008年度
研究分担者または連携研究者		
	亀田 修一	（岡山理科大学）
	佐川 正敏	（東北学院大学）
	花谷 浩	（奈良文化財研究所）
	小澤 毅	（奈良文化財研究所）
	今井 晃樹	（奈良文化財研究所）
	林 正憲	（奈良文化財研究所）
	中川 あや	（奈良文化財研究所）
	高田 貫太	（奈良文化財研究所）
研究協力者	安 家 瑤	（中国社会科学院考古研究所）
	朱 岩 石	（中国社会科学院考古研究所）
	金 誠 龜	（韓国国立中央博物館）
	金 有 植	（韓国国立扶餘博物館）
	石田由紀子	（奈良文化財研究所）
- 4 拓影・実測図は、1/4の縮尺を原則とし、これと異なる場合は縮尺を明示した。
- 5 本書の編集は、小澤 毅と今井晃樹が担当し、中国語の翻訳は今井がおこなった。韓国語の翻訳は梁淙鉉氏（帝塚山大学大学院生）に依頼し、高田貫太が監修した。

6 本書の作成とシンポジウムの開催、また資料調査にさいしては、執筆者・報告者の方々をはじめ、下記の関係者や関係機関の多大なご協力を得た。篤く感謝の意を表したい。

王 巍氏 (中国社会科学院考古研究所)	潘麗華氏 (中国社会科学院考古研究所)
王書敏氏 (鎮江博物館)	曹臣明氏 (大同市博物館)
王碧順氏 (南京大学)	ソウル大学校博物館 (韓国)
汪 勃氏 (中国社会科学院考古研究所)	大同市考古研究所 (中国)
大脇 潔氏	大同市博物館 (中国)
華国栄氏 (南京市博物館)	大明宮遺址保管所 (中国)
韓神大学校 (韓国)	田福 涼氏
姜元杓氏 (国立清州博物館)	中国社会科学院考古研究所 (中国)
金鍾萬氏 (国立扶餘博物館)	張学鋒氏 (南京大学)
金哲主氏 (国立扶餘文化財研究所)	鎮江博物館 (中国)
金容民氏 (国立扶餘文化財研究所)	田庸昊氏 (国立扶餘文化財研究所)
權五榮氏 (韓神大学校)	南京市博物館 (中国)
權相烈氏 (国立扶餘博物館)	南京大学文化与自然遺産研究所 (中国)
国立慶州博物館 (韓国)	南京博物院 (中国)
国立慶州文化財研究所 (韓国)	濱口典子氏
国立公州博物館 (韓国)	比嘉えりか氏
国立清州博物館 (韓国)	白雲翔氏 (中国社会科学院考古研究所)
国立中央博物館 (韓国)	閔丙勳氏 (国立清州博物館)
国立扶餘博物館 (韓国)	弥勒寺址遺物展示館 (韓国)
国立扶餘文化財研究所 (韓国)	向井佑介氏
国立文化財研究所 (韓国)	揚州市文物考古研究所 (中国)
崔聖愛氏 (国立公州博物館)	李圭勳氏 (国立扶餘文化財研究所)
佐々木聖子氏	李鮮馥氏 (ソウル大学校博物館)
志賀 崇氏	李南珪氏 (韓神大学校)
清水昭博氏	李炳鎬氏 (国立扶餘博物館)
申鍾國氏 (国立文化財研究所)	路 侃氏 (南京大学)
申昌秀氏 (国立公州博物館)	盧基煥氏 (弥勒寺址遺物展示館)

(五十音順、所属は当該時点)